

県士会 ニュース

No.235

[2025.10]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

TOPIC 令和6年度地域支援活動助成金事業の紹介 P. 3

巻頭言	P. 1	拘縮の評価と治療（運動器，中枢疾患）	P. 4
MTDLP推進育成課からのお知らせ	P. 2	理事会議事録	P. 5
OTが知っておくべき制度情報コーナー（第13回目）	P. 2	事務局からお願い	P. 7
各部からの報告	P. 4	編集後記	P. 7
学術部主催でリーズニングについて ハイブリッド研修を開催しました！	P. 4		

巻頭言

臨床で必要とされる作業療法と 進路を探す高校生の目に映る 作業療法の差



広報部ニュース班長 出口 弦舞
(国際医療福祉大学
小田原保健医療学部 作業療法学科)

余り語呂のよいタイトルでないことを先にお詫びする。筆者は養成校の就職担当教員である。お陰様で多くのご施設から学生リクルートのお話をいただいている。当学科からは毎年約 40 名の卒業生が巣立つが、今年も主な就職エリアとなる神奈川、静岡、東京からの求人件数は 400 以上で、1 件につき複数名の求人もあるから卒業生の 10 ~ 20 倍の募集はある形である。各ご施設で求人の業務に関与されている方は「どこかに OT がいないか」と一生懸命探されていることであろう。たとえば上記の求人は神奈川県内の 8 つの養成校の卒業生を合わせても埋めきれない。これが現状である。

この状況は臨床で作業療法士を求めている方にとっては厳しい。しかし一方で作業療法士の需要がこれだけ多くあるとも言える。臨床での作業療法の需要と活躍の期待がまだまだ拡大していると考えれば、作業療法の発展と活性化には嬉しいという見方もできる。

そんな中、私は今年度から学生募集の担当にもなった。つまり養成過程において「入口と出口」両方の担当となったのである。名前は出口なのに…。ここで痛感しているのは、臨床で作業療法士が必要とされている一方、作業療法士を

目指す高校生はかなり少ない、ということである。2026 年の神奈川県内の作業療法養成過程の募集定員合計は、私が計算するところ 205 名と考えられる。もしも各養成校が平均して 2 倍の募集倍率、つまり定員に対し 2 倍の受験者数を確保するとしたら、410 名の高校生が必要である。そして肌感覚としては 410 名の作業療法を志望する高校生を集めるということはなかなかハードルが高い。2018 年度の宇都宮市における高校生の進路希望調査で、医療福祉系を目指す男性は 15.7%、女性は 31.9% であったそうだ。これがそのまま神奈川に当てはまるかどうかは不明だが、そもそも医療福祉系を目指す高校生が限られることは確かだろう。しかもその中で作業療法を目指すという者はさらに絞られるのである。時折「臨床現場の見学に来る高校生はたまにいる」と仰る方もいるが、「たまに」ではなく、「しょっちゅういる」ではないと不足する可能性があるのである。

ここから「臨床で作業療法士は必要とされるが、実は成り手が少ない」というミスマッチ傾向は既に始まっていると思う。この状況は臨床現場で勤務される皆様にもぜひ知っておいていただきたい。作業療法が人材の面で先細りしてしまう危険もはらむからである。

ご存じの方も多いと思うがアメリカでは小学校に作業療法士が居る。小学生時代から「ああいう仕事があるんだな」と思えることは、明らかに将来の職業選択に影響を及ぼす。では日本ではどうか？多くが高齢者、しかも何らかの不自由が発生して初めて知る職業ではないだろうか。作業療法が将来の進路を探す高校生の目に映る機会は果たしてあるだろうか。高校生時代だけでなく、きっと中学生時代も、小学生時代もその機会は皆無に近いのではないかと。となれば日本でも学校に作業療法士が居た方が良く、作業療法士が勤務する施設で、もし地域との関りのある機会があるのであれば、できるだけ小学生、中学生に作業療法を知ってもらうチャンスが作れたら、と日々考えている。

連載

MTDLP推進育成課からのお知らせ ～ MTDLP事例報告会で発表後、 MTDLP指導者資格取得までの道のり～

鶴巻温泉病院 作業療法士 山口拓也氏インタビュー

——今回、MTDLP 事例検討会で発表しようと思ったきっかけを教えてください。

「認定作業療法士の要件である事例報告登録制度に、MTDLP事例として報告するため発表を目指しました。以前、一般事例での報告では一人で進める難しさを痛感し、不合格という結果に終わった経験がありました。今回は、神奈川県作業療法士会MTDLP推進育成課の指導体制が整っていることを知り、事前に添削や助言を受けられる環境の中で、再挑戦しようと決意しました。」

——同時に OT 協会認定の MTDLP 指導者資格の取得も目指していたそうですね。

「MTDLPを活用して事例をまとめる過程で、臨床推論を可視化し、構造的に捉える力が深まることを実感しました。教育的立場にある中で、卒後教育への応用だけでなく、実習中のOT学生がMTDLPを用いてレポートをまとめる場面も増えていました。よりの確な指導のため、OT協会認定のMTDLP指導者資格の取得を目指しました。」

——発表した事例はどのようなものだったのでしょうか。

「私が報告したのは、終末期の緩和ケア病棟に入院された患者さんの事例でした。類似の報告が少なく、情報の整理に

苦労しましたが、県士会の指導者の方々から多角的な視点で助言をいただき、内容を深めることができました。当日の報告会でも、多くのMTDLP推進育成課の先生方から温かく的確なご指導をいただき、大変貴重な機会となりました。」

——報告会後は、どのような成果がありましたか。

「報告会後に投稿した事例報告は無事合格となり、指導者資格も取得できました。MTDLPは作業療法士にとって、臨床推論力を高める重要な枠組みであると実感しました。今後は卒前・卒後教育の場で積極的にMTDLPを取り入れ、後進の育成に役立てていきたいと考えています。」

山口氏は、不合格の悔しさをバネに再挑戦し、見事に成果をつかみました。MTDLPは「臨床推論力を鍛える強力なツール」であり、これからは教育の現場で後輩育成にも活かしていくとのこと。彼の挑戦は多くの士会員に勇気を与えてくれるはずです。

士会員の皆様の中で、MTDLPの活用や育成支援体制についてご興味がある方は、神奈川県作業療法士会教育部 MTDLP推進育成課までお気軽にお問い合わせください。
(文責 教育部・MTDLP推進育成課 担当理事 村仲隼一郎)

OTが知っておくべき制度情報コーナー 第13回目

働き方改革実行計画を踏まえた両立支援コーディネーターについて

制度対策部 担当理事 佐藤 範明

神奈川県作業療法士会会員の皆さん、こんにちは。制度対策部です。本コーナーでは「作業療法士が関わる諸制度(法律)」を含め、皆様のお役に立つ法令などの情報を発信します。今回は「両立支援コーディネーター」に関して情報をお届けします。

平成29年3月、働き方改革実行計画において、疾病を抱える労働者の治療と仕事の両立について、これを社会的にサポートする仕組みを構築するため、「両立支援コーディネーター」の養成等に取り組むべきことが示されました。

1. 両立支援コーディネーターの役割

両立支援コーディネーターは、支援対象者に寄り添いながら継続的な相談支援を行うことが期待され、支援対象者が治療と仕事を両立できるよう、それぞれの立場に応じた支援の実施や関係者との調整を行う役割があります。

2. 両立支援コーディネーターに求められる能力

- (1) 両立支援コーディネーターの役割等に関する知識

- (2) 医療に関する基本的知識
- (3) 産業保健に関する基本的知識
- (4) 労務管理に関する基本的知識
- (5) 社会資源に関する知識
- (6) コミュニケーションスキル

これらの基本的な知識や能力が必要です。両立支援コーディネーターとして想定される者にリハビリテーション専門職も含まれ、活躍が期待されています。

3. 両立支援コーディネーターの分野と研修

代表的な支援分野として、がん、脳卒中、糖尿病、メンタル疾患などが挙げられます。いずれも日々、作業療法士として関わることの多い分野であり、就労や仕事といった「作業」との親和性が高い領域です。令和7年度両立支援コーディネーター基礎研修は年7回、オンラインで無料開催されます。興味のある方はQRコードのリンク先をご参照ください。



令和6年度 地域支援活動助成金事業の紹介

OT エリアミーティング「県央エリア」でのつながりをきっかけに、「地元相模原で、市民向けにイベントを企画しよう」と機運が高まり、この度神奈川県作業療法士会「地域支援活動助成金事業」の申請をさせていただきました。

研修会テーマ：

「作業療法士と学ぶメンタルヘルス@さがみはら」

開催日時：令和7年10月5日（日）13：00～16：00

開催場所：障害者支援センター松が丘園
（相模原市中央区松が丘 1-23-1）

対象者：相模原市在住・在勤の市民ならびに支援者の皆様

団体名：ココロとカラダ@SAGAMIHARA

代表者：小砂哲太郎（国立精神・神経医療研究センター病院）

研修内容としては、熊谷直樹医師（相模原市健康福祉局）からの講演に加えて、「作業療法士と学ぶメンタルヘルス」というテーマのもと当事者（回復者）の方々や世話人を行う相模原市にゆかりのある4名の作業療法士が講義や対談を行い、メンタルヘルスについて市民や支援者と学ぶ機会にしたいと思います。研修は毎年10月の世界メンタルヘルスデーに合わせて開催し、共催には相模原市社会福祉事業団に加わっていただき、市内各所への広報にもご協力いただきました。研修会後には改めて事業報告をさせていただきます。



神奈川県作業療法士会 地域支援活動助成金事業
社会福祉法人相模原市社会福祉事業団
令和7年度相模原市立障害者支援センター松が丘園
開設30周年記念事業

10/10
世界メンタルヘルスデー

【ココロとカラダの専門家】

作業療法士と学ぶ メンタルヘルス @さがみはら

参加費
無料

2025年10月5日（日）
13:00～16:00
@ 障害者支援センター松が丘園
（相模原市中央区松が丘1-23-1）

【主催】ココロとカラダ@SAGAMIHARA
【共催】社会福祉法人 相模原市社会福祉事業団
（福祉研修センター/基幹相談支援センター）

ココロとカラダ を大切に

メンタルヘルスに関する正しい知識を普及することを目的に、10月10日は「世界メンタルヘルスデー」と定められています。この度、メンタルヘルス領域に従事する作業療法士を中心に、昨今話題となっている「依存症」「成人の発達障害」をテーマに研修会を企画しました。相模原市に勤務する熊谷先生や相模原にゆかりのある作業療法士、当事者（回復者）の方々にも登壇いただき、市民の皆さま、支援者の皆さまと一緒に学ぶ機会になればと思います。会場は地域の障害者をささえる拠点として開設した松が丘園30周年を記念し、同園にて開催します。皆さまのご参加をお待ちしています！

【内容】

- 相模原市の精神保健福祉について
医師：熊谷直樹氏
（相模原市健康福祉局 地域包括ケア推進部）
- 作業療法士と学ぶメンタルヘルス
 - 依存症（アディクション）
作業療法士：小砂哲太郎（国立精神・神経医療研究センター病院）
猿爪優輝（北里大学病院）
 - 成人期の発達障害
作業療法士：川畑啓（昭和医科大学鳥山病院）
村岡和也（横浜市総合保健医療センター）

【対象者】相模原市内在住、在勤の市民ならびに支援者の皆さま
【定員】50名程度（見込み）
【申し込み方法】下記サイトもしくは右の二次元コードより当該研修のお申込フォームを選択し、必要事項をご入力ください。不明な点はご連絡ください。
・申込サイト：<https://sagamihara-shafuku.online/study/citizen.html>
・メール：chiikishien@sagamihara-shafuku.or.jp
・電話：042(758)2121
【申込締切】9月30日（定員に達し次第、締め切らせていただきます）

研修
一覧表

各部からの報告

▶ 学術部

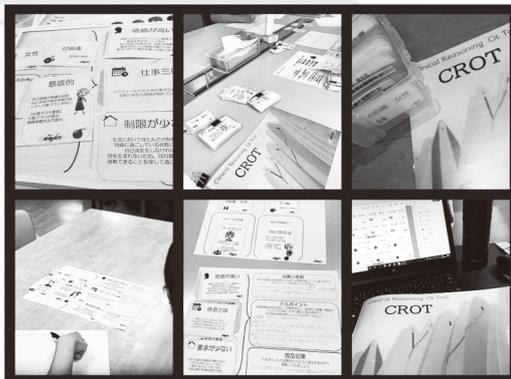
学術部主催でリーズニングについて ハイブリッド研修を開催しました！

6月29日に茅ヶ崎中央病院の藤本一博先生をお招きして「若手必見！作業療法の臨床推論力を高めるCROTの活用方法」と題して研修を開催しました。新人から10年以上まで、会場とzoom参加者を合わせて40名以上がご参加くださいました。CROTとは、クリニカルリーズニングの演習ツールであり、発想力を鍛え、多様性を認めた柔軟なリーズニングを促進するカードゲームです。カードは「年齢と性別」「疾患と領域」「性格」「問題」「気持ち」「習慣」「環境」の7種59枚で構成されています。研修では、カードを選んで仮想のクライアントを想定してグループワークを行い、どのグループも楽しそうでした。特徴的なのは、機能的な情報があえてカードになっていないこと。クライアントを「障害のある人」としてリーズニングするのではなく、「人」としてリーズニングできることが

OTの専門性であることを改めて気づくことができた研修となりました。(文責：林慎也)



これは現在、いくつかの学校やOTの施設でご使用いただいている



拘縮の評価と治療（運動器，中枢疾患）

手，肘関節の解剖・バイオメカを学び，徒手での動かし方を学ぼう！

7月5日に学術部主催で金沢大学附属病院の堀江翔先生から、「手，肘関節の解剖・バイオメカを学び，徒手での動かし方を学ぼう！」と題して研修会を行いました。

堀江先生による講義では、手，肘関節の解剖学的構造や画像の見方などを始め、研究データを合わせながら各関節の動きや角度など丁寧に講義していただきました。さらに拘縮に対するセラピーとして、拘縮の分類を理解しながら、各原因における対応法や治療法などをご教示いただきました。

研修会後半では、実際に徒手での動かし方を実演にてご講義いただきました。関節の構造を意識し、凹凸の法則を元に実際に練習を行いながら進めることができました。さらには、スプリントの作り方もデモンストレーションしていただき、数少ない対面の研修会ですが、とても貴重な経験と学びをいただくことができました。

今年度も対面式講義やZoomでの研修会も数多く企画しておりますので、是非ご参加ください!!
(文責：山本)



県士会サイト 研修会情報・求人情報案内 / ▶広報部

県士会サイトは「みて役立つ!すぐ役立つ!まずはクリック!県士会サイト」のキャッチフレーズのもと、いつでも・だれでも・どこでも、県士会情報・作業療法にまつわる情報を閲覧できる県士会データベースとして整備をしています。

県士会のお知らせをはじめ、日々の臨床等にも役立つコンテンツも豊富です。また、県士会サイトでは神奈川県内の求人情報、神奈川県内外の研修会情報の発信を行っており、メールマガジン・X(旧Twitter)・Facebook・Instagramを登録することで更新情報をいち早く受取ることが可能です。

以下のQRコードから各種メディアの登録が行えます。メールマガジンの登録・SNSのフォローお待ちしております。皆様にとって役に立つ県士会サイトの運営に努めてまいります。是非ご活用いただければ幸いです。(文責 広報部 佐藤範明)

図)【研修会情報・求人情報】
県士会サイト閲覧方法(スマホVer.)



スマホ版
トップページにある
「研修会情報」
「求人情報」を
タップ!

各種メディア 県士会発信情報受取QRコード

電子メール(メールマガジン)
Kanaからの手紙



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram



理事会議事録

★ 2025年度 第3回理事会 議事録 2025.6.12

日時: 2025年6月12日(金) 19:00~21:05

開催方式: オンライン開催

場所: 各自自宅または職場

出席理事: 奥原孝幸(副会長)、遠藤陵晃(副会長) 望月強併(事務局長)、玖島弘規、野本義則、澤口勇、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、佐藤隼、佐藤範明、山勢健太郎、村仲隼一郎、佐伯まどか、石川恵美子

出席監事: 錠内広之

欠席理事: 野々垣睦美

I. 会長より挨拶

先日の定期総会では代議員の方々から貴重な意見を頂きました。新組織の中で積極的に取り組んでいければと思います。新理事の方は初参加となると思いますがどうぞよろしくお願い致します。

II. トピックス

1. 2025年度定期社員総会の振り返りについて (田中副会長)

代議員から会員数増加に向けた取り組み、会員数減少を抑制するための取り組みについてご意見を頂いた。

当会として改めてワーキンググループを発足して取り組んでいきたい。会員ワーキングの概要としては新入会員費無料等に対する検証、会員数減少の抑制に関する取り組みを検討する。メンバーは事務局、財務部、福利部、規約部、青木理事で取り組みたい。

活動期間は2026年度定期社員総会までとし、年4回を予定している。ワーキングの発足について審議頂きたい。

➡賛成多数で承認

2. 役員選挙の振り返りについて (田中副会長)

役員選挙に関して、時流にあった公平公正な選挙実施に向けたマニュアルの見直しを行う。

活動期間は2026年度定期社員総会までとする。メンバーは田中副会長、事務局(玖島)、規約部(神田)、必要に応じて選挙管理委員としている。選挙ワーキングの発足について審議頂きたい。

➡賛成多数で承認

3. 県庁訪問の報告について (神保会長)

県庁職員に対して資料を基に説明を行った。作業療法の専門性のキーワードである「生活」や「生きがい」、「健康」に関して伝えた上で作業療法の活用について提案した。特に人材バンク(仮)を作り、対象者のミッション、ゴールに合わせた取り組みができるよう事業提案を行った。まずは県庁と協業した事業展開ができるよう進めていきたい。県庁職員も前向きに捉えて下さっており、作業療法の活用、可能性についてより一層伝えていくことで認知度も上がっていくと思われる。継続的に取り組んでいく。

P.6へ続く

Ⅲ. 審議事項

1. 顧問承認について(神保会長)
 神奈川県作業療法士会顧問について渡邊愼一氏を推薦する。
 →賛成多数で承認
2. 理事の部長承認及び下部組織の承認について(事務局)
 - (1) 部長、副部長候補
 学術部 部長:佐々木秀一 副部長:青木啓一郎
 教育部 部長:神保洋平 副部長:村仲隼一郎
 事務局次長 玖島弘規
 財務部 部長 山勢健太郎
 規約部 部長 神田崇央
 福利部 部長 澤口勇
 地域社会振興部 部長:佐藤隼 副部長:石川恵美子
 エリア連携部 部長:佐伯まどか 副部長:野本義則
 制度対策部 部長:佐藤範明 副部長:佐藤隼
 広報部 部長:野本義則 副部長:佐藤範明
 →賛成多数で承認
 - (2) 下部組織候補
 【学術部】
 学術推進課:スキルアップ研修班・研究助成班・学術誌編集班・研究倫理班
 学会支援課:学会班・臨床大会班
 【地域社会振興部】
 地域事業課:地域人材育成班・横浜市事業班・広域事業班
 地域リハ課:認知症対策班・こども班・精神保健福祉班・難病リハ班・スポーツ支援班・訪問/通所班
 【広報部】
 情報発信課
 対外広報課
 【教育部】
 現職者研修課
 実習指導育成課
 研修ポイント管理課
 MTDLP推進育成課
 【制度対策部】
 福祉用具班・自動車運転班・社会保障制度班・災害対策事業班
 →賛成多数で承認
3. 部員承認について(事務局)
 →賛成多数で承認
4. 県外査読委員の委託について(佐々木理事)
 電子ジャーナル化に伴い、年々投稿数が増加している。教育的な査読をしており論文掲載までに半年以上要している状況。1つの査読が完了するまでは次の論文を担当しないようにしており、新規投稿論文の対応ができない状況となってきている。まずは県内で査読ができるスタッフを優先するが、不足した場合に県外のスタッフを活用できる環境を整備したい。
 結論:査読者を増やす件については、改めて基準や要件を再検討する。
5. 「作業療法士と学ぶメンタルヘルス@さがみはら」について(事務局)
 →賛成多数で承認
6. 「第33回整形外科リハビリテーション学会」後援依頼

について(事務局)

- 賛成多数で承認
- 7. 申込書等の書式変更について(玖島事務局次長)
 入会申込書、退会届、変更届について書式変更を行う。
 →賛成多数で承認

Ⅳ. 報告事項(各部署・理事・三役)

1. 電子印鑑について(事務局)
 現在、振り込みが主となって明細が残るため電子印鑑の押印は不要である。電子印鑑の必要性について公益法人化協会に問い合わせを行った。回答としては、法人の内部規程等で押印を義務づけられていなければ問題ないとのことであった。会計マニュアルの変更で対応可能なため、進めていく。
2. 事務局員募集について(事務局)
 現在2名体制となっているため増員を検討している。事務局員からは常勤者の採用希望がある。今後募集し、採用手続きを進めていく。
3. 事務局員給与について(事務局)
 現在の事務局員の時給が最低賃金よりも若干高い金額だが、長期間勤務している方の賃金もほとんど変わっていない状況。関内エリアの時給は1300円ほどであり、給与体系について今後検討していく。
4. 会員管理システムについて(事務局)
 「協会員=士会員」においてメールアドレスは協会から得られるようになっている。県士会内での情報管理については外部業者が作成したソフトを使用している。しかし更新ができていない部分もあり、どのような管理体制が望ましいか検討する必要がある。情報管理方法や情報発信(会員へのメール送信)の方法についてはメールにて意見聴取を行う。
 <意見>
 神田理事:協会からの県士会員のメールアドレス取得について会員への周知が必要なのではないか。以前、覚書を取り交わす際に弁護士に相談したところ、メールアドレスの取得や使用について丁寧な説明が必要であるとの意見を頂いた。提案としては、会員に対してメールアドレスを取得することと使用することについて周知する期間を設けたらどうか。
5. 理事内情報共有システムについて(事務局)
 現在、様々なツールを使用しているが用途を明確にした上で使用するツールを検討したい。メールにて意見聴取する。
6. 2024年度研究助成事業対象者の研究期間の延長について(佐々木理事)
 サンプル収集に時間を要するため、延長希望があった。研究上、問題ないため延長可とする。
7. 学会進捗報告について(青木理事)
 - ①第20回神奈川県作業療法学会について
 演題45件中、19件が採択、26件が修正後採択となり不採択はなし。6月初旬に最終採否を通知予定。プログラム編成は6月に実施し、ホームページ上で事前に公開予定となっている。保育室の設置、機器展示、カフェコーナーの準備も進行中。参加登録も開始予定で、合わせてSNSでの情報発信も強化していく。予算案はボランティア人数や助成金、企業収入等を反映し

最終調整中。事前申し込みも開始されているため、ぜひ多くの方に登録して頂きたい。

②第7回臨床作業療法大会について

実行委員会も開始となり、準備が進んでいる状況。開催地は神奈川県立保険福祉大学を検討中であり、大会長が12月の理事会報告を目安に大会趣意のプレゼンテーションを作成する運びとなっている。

8. ポイント申請、事例登録読み替えマニュアル変更について (神保洋平理事)

資料を用いて説明。

9. 新入会員オリエンテーションについて (福利部)

日時：2025年6月29日(日)11時30分～12時30分

場所：イムス横浜国際看護専門学校

(JR横浜線、田園都市線 長津田駅)

研修会の参加者は30名ほど。募集をかけていく。

【その他報告部署・理事】

1. リハ手帳について (神保会長)

今まで澤口理事が主体となり活動してきた。澤口理事の部署変更に伴い、事務局で引き継いでいく。

2. 医療保険・介護保険における作業療法算定に関する担当者会議について (佐藤範明理事)

疾患別リハビリテーションや介護医療院において作業療法について返戻になっているケースがある。

OT協会としても情報収集をしているため、必要に応じて協会へ情報提供していく。

V. 監事より

錠内監事

任期の間で結果が出せるようスケジュール感を持って取り組んでいってほしい。各部署連携して進めてほしい。

以上 (文責:事務局 玖島弘規)

— この機会にぜひご紹介ください —

当会では今年度より、「その年に作業療法士国家試験に合格した方が、当該年の12月末日までに正会員入会申し込みをされると入会金及び初年度年会費の納入が免除」となります。これは2024年度定期社員総会、2024年度臨時社員総会を経て、承認されました。

新卒者の経済的負担を軽減し、作業療法士の第一歩を後押ししたいとの思いから導入されました。まだ県士会に入会されていない新卒者の方がいましたら、ぜひご紹介ください。詳細は神奈川県作業療法士会のウェブサイトをご覧ください。(文責 事務局 玖島弘規)

事務局からのお願い

- **届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)
- **休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに ①『休会届』と ②『証明書』を郵送でご提出願います (FAX不可)。
- **退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います (上記日必着)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式**ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集後記

この号が読まれるころ少し涼しくなっているでしょうか(書いてる今日は9/12)。暑がり汗っかきの私は地球温暖化が一番怖い類の環境問題です。私の家にクーラー(エアコンではない)が来たのは小学校3年生くらいですが、それまでは扇風機だけでも対応できたのです。東京都下に住んでいましたが、小学校の夏休みの毎日絵日記にも30℃と書いた日は数日で、ほとんどが28℃くらいでした。寒いことは服を着るなどエネルギーを直接使わなくても対処できるのに対し、暑いことは裸になるのが限界で、今の気温ではクーラー(エアコン)に頼らざるを得ないので深刻な気がしてしまいます。どうかこれ以上暑くならないで…。(ぴぐめい)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース(235号) 2025年10月発行(年5回発行)

発行責任者 神保 武則
 編集責任者 野本 義則
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
 山岡 光(湘南慶育病院)
 佐藤 愛(悠の木株式会社)
 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
 松井 洋鷹(淵野辺総合病院)
 碓屋 瑛理(佐藤病院)
 印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011
 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号
 TEL/FAX: 045-663-5997
 月火水木金 10:00~15:00
 メールアドレス: jimukana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp>
 → 作業療法 神奈川 検索



Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
 X <https://twitter.com/kaotwebkan>